

smoze.htm by M.Nakanishi



(東武 Star Light Express 会津高原駅 夜明け 6.9. am 3:30)

1. 水芭蕉・花の尾瀬ヶ原・尾瀬沼 2001.6.9.
2. 初夏の尾瀬ヶ原 探索スナップ 2001.6.9.

1. 水芭蕉・花の尾瀬ヶ原・尾瀬沼 2001.6.9.



"STAR LIGHT EXPRESS 尾瀬" 東武 尾瀬夜行 23:50

6月8日 夜 霧雨の中 家内と二人で初夏の尾瀬・水芭蕉を目当てにでかけました。何拾年振りか 満員の夜行電車にのって 電車の走る音を聞きながら床に寝て行きました。まったくの学生時代に戻った華やいだ気分になっていました。

北千住を深夜に出て鬼怒川沿いを奥日光から奥会津へ。ふっと目が覚めると午前3時半 会津高原着。まだ日の出前の白みかけた夜空にお月様。梅雨空の雨を予想していましたが、快晴で絶好の日和。朝4時半 尾瀬散策の会津側の入山口沼山峠へバスで 冷たい澄んだ空気の中、夜明けの山々が若葉に映えて美しい。

今日は会津側から燧が岳の山裾を尾瀬沼から尾瀬ヶ原へ一気に尾瀬ヶ原を縦断して群馬側鳩町峠へ下りる強行軍の予定。人ごみを避け、一気に尾瀬沼と尾瀬ヶ原をハイクする欲張った計画。

去年は一人逆から行ったのですが、今年は家内と二人。去年ほぼ同じ頃 東武夜行のチケットも買ったのですが、台風接近の雨でやむなく中止。家内にとっては2年越しの尾瀬の水芭蕉です。

沼山峠から大江湿原・尾瀬沼へ



朝 6 時 冷たい山の空気を一杯吸い込みながら沼山峠を出発。峠を下って大江湿原へ。
朝靄の中 静まり返った森に時折うぐいすの鳴き声。一生懸命練習しているのか 色々な鳴き方が聞こえてくる。30 分も歩くと大江湿原が森の向こうに見えてきた。
昨年 ニッコウキツゲの夏の夕 長い人の行列だった大江湿原も今日はまだゆったり。
あちこちの湿地に水芭蕉が咲いてすがすがしい朝である。大江湿原の向こうに尾瀬沼とその辺に長蔵小屋が見えている。
家内は湿原の中をぬって尾瀬沼へ流れる小さな小川のほとりに咲く水芭蕉の群落や湿原の草花に歓声をあげている。
桧枝岐から沼山峠へのバスの途中 残雪をいただいた燧ヶ岳の頂上がみえていたが、今は雲の中。

先日友人から亡くなられた長蔵小屋の平野長英さんが京都で勉強された仲間の一人と聞きました。こうして尾瀬を歩いていると尾瀬の環境を守るのに精魂を傾けられた努力で美しい尾瀬が守られている事に感謝すると共に一種の後ろめたさも感じています。
年々尾瀬も乾燥化が進んでいるのか 大江湿原・尾瀬沼そして尾瀬ヶ原でも水芭蕉の群落が年々小さくなっているの感じがして気がかりです。
尾瀬沼の端に建つ長蔵小屋



尾瀬沼のほとりを水芭蕉を見ながら沼尻へ そして 尾瀬ヶ原 会津側の入口見晴へ

尾瀬沼のほとりに咲く水芭蕉と森の中にこだまするうぐいすの鳴き声を聞きながら長蔵小屋の反対側の湖岸の沼尻へ。午前 8 時 沼尻の休憩所着。思ったより早くここまで来れた。



家内は休憩所の人に尾瀬の花の図鑑を薦めてもらっている。
沼尻からはまっすぐ燧ヶ岳へ登るルートがあるのですが、ま



だ燧ヶ岳の上半分は雲の中全体は見えず。
 そのまま 尾瀬か原の端 見晴へ向かってまた森の中へ
 入っていく。さすがに尾瀬ヶ原からこちらへ向かってく
 る人が多くなる。山道の沢のあちこちにも水芭蕉が咲い
 ている。森の中のアップ ダウンを幾度か繰り返している
 うちに山小屋とその間からぱっと広がる尾瀬の湿原そ
 してその向こうに至仏山が不意に見えた。尾瀬の北の入
 り口見晴である。やっぱり沢山の人が小屋の周りにいる。
 道の両側の小屋の間からずっと広がる尾瀬ヶ原とその向
 こうに見える至仏山が見える。何度来てももここはいい。



尾瀬ヶ原散策



朝早い為か思ったより人は少ない。予定より随分早く尾瀬ヶ原に入れたので、コースを変更。
 尾瀬ヶ原のメインルートを見晴十字路から竜宮小屋一山の鼻へ尾瀬ヶ原を縦断して群馬側鳩町峠に下り
 る予定であったが、山の鼻の手前三叉路まで行って逆戻りしてヨッピー川の方から温泉小屋へ行き静かな
 森の中を燧ヶ岳を巻
 を会津川御池口へ下
 メーンルートは随分
 し外れると静かに花
 ながら尾瀬ヶ原を歩
 沼尻の小屋で買った
 っ引きで歩いている。



いて燧裏林道
 ることにした。
 人が多いが少
 や水芭蕉を見
 ける。家内は
 花の図鑑と首

水芭蕉・立山リンドウ・ヒメシャクナゲ・ゴゼンソウ・チングルマ・ショウジョウバカマ・ゴゼンタチ
 バナ・エンレイソウ・ミツガシワ・リュウキンカほか数多くの高山植物に出会えました。



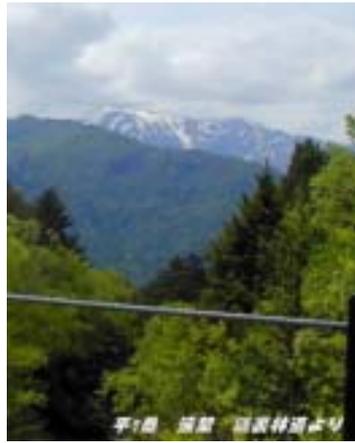
どこまでも続く湿原の正面には至仏山また背後には燧ヶ岳が姿を現している。尾瀬ヶ原を
 はさんで両方の山の山頂が一度に見える幸運。

また尾瀬ヶ原の真中では「水をたたえた池澗
 に水芭蕉の群落 其の後には至仏山」まさに
 写真で見る風景そのままの水芭蕉の群落にも

【尾瀬の高山植物 2001.6.9.】



ヨッピー温泉小屋一段吉新道・燧裏林道― 上田代・横田代―会津御池口へ



幻の花「トガクシ ショウマ」

尾瀬ヶ原の北端を沿って流れるヨッピー川に沿って温泉小屋から樹林帯の中の段吉新道を会津側へ下る。尾瀬ヶ原の人影がうそのように人のいない静かな森の中を燧ヶ岳の裏側に点在する田代へ。ヨッピーから東電・温泉小屋の中に入ると静かな森の中。アップダウンの厳しい道を燧ヶ岳の山腹の巻き道にはいる。



はるか下の方には平滑・三条の滝から新潟県側奥只見へ流れるヨッピーの川音がかすかに聞こえる。1時間ほど森の中を歩いたところから新潟側へ川を下ってゆく道と燧ヶ岳の裏側へ回り込んで行く燧裏林道へと入る。新緑のブナがまぶしい。いくつかの沢筋を越えたところで一人熱心に写真を撮っている人にであった。沢の流れの崖にからまった細い木に桃色と紫の中間色の小さな花が5つほど咲いていた。「トガクシショウマ」と言い、尾瀬ではここにしかない花で非常に珍しい花という。先日霧島の山中で声をかけ 霧島の珍しい花を教えてもらったのに味をしめ、できるだけ声をかける事にしているが、ここでも珍しい花に出会えた。この森の中を走る燧裏林道には森と森の間をつないでいくつかの田代が点在している。森に囲まれた湿原には小さな池澮が点

在し、そのいくつかには水芭蕉や黄色いチングルマの群落がある。右側には燧ヶ岳の山腹が迫り、反対側遠くにはべったりと雪をつけた平ヶ岳そして其の隣さらに奥に見えるのは越後三山か？ 尾瀬ヶ原とは違った静かな山の湿原である。

このあたりは昨年もう前がまったく見えない霧と風の中を下っていったところ。

上田代・横田代の湿原を越えさらに北へ下ってゆくと群生した水芭蕉で埋まった御池の湿原。御池の湿原のすぐ傍が会津御池口 今回の尾瀬WALKの終着点。午後3時過ぎ。



沼山峠から下ってくるバスに飛び乗って、桧枝岐から館岩村を通過して会津高原駅へ。

すばらしい尾瀬探索の一日となりました。



尾瀬ヶ原メインルートをそのまま進み、行列の山の鼻から鳩町峠へ下ることと思うと燧裏林道へまわったのは天候に恵まれたとはいえ正解でした。

家内ははじめて見る尾瀬沼・尾瀬ヶ原のスケールに驚き、水芭蕉そして咲き誇る沢山の高山植物花にめぐまれ、次は秋と張り切っています。

本当によい時に天候に恵まれ、尾瀬を歩けたことラッキー。

もっとも いつも立ち寄る会津高原駅のすぐ上の温泉「夢の湯」に誘った時には「もう足が動かん」といっていましたが・・・・・・・・

朝6時に沼山峠を出発して約10時間。まあ、本当によく歩きました。最後は足がガクガク・・・・・・・・朝もやの中 水芭蕉と出会えた大江湿原。

そして 静かな尾瀬沼のほとりうぐいすの声を聞きつく湖岸の山道を水芭蕉を見ながら尾瀬ヶ原へ。至仏山と燧ヶ岳の山を両端に抱き山の人々が歩いているにもかかわらず、ごま粒ほどにしか見えず、自然の圧倒的な広がりを示す尾瀬ヶ原。其中で静かに咲く数多くの高山植物・水芭蕉。

尾瀬ヶ原の探索 本当に「これが水芭蕉の尾瀬だ」とゆっくりと尾瀬の初夏の草花を堪能できました。

山の鼻の手前 三叉路から群馬側へ道を反転しててヨッピー川沿いに新緑のブナ林の続く燧裏林道へ。雪を抱いた平ヶ岳など奥只見の山を遠景に神秘的な田代が続く静かなブナ林。

本当にこれ以上に欲張りもない欲張ったコース設定でしたが、すばらしい尾瀬を一日探索できました。次来る時は 木賊温泉か湯の花温泉に泊まって一日は田代山へも出かけたと思っています。



2001. 6.9. 夕

会津高原 温泉「夢の湯」につかりながら

M. NAKANISHI

7.2. 初夏の尾瀬ヶ原 探索スナップ 2001.6.9.

